

コラム 13：野球観戦

この5月の連休に息子夫婦、孫娘とともに、久しぶりにマツダスタジアムに行きました。新球場が出来てから、これで4回目の観戦です、と言えど私があまり熱心なファンでないことを白状しているようなものですね。今回は、見る方も、自分でやる方も、「熱烈なる野球ファン」である息子の誘いによって(彼の驕りということ)行くことになったのです。

その日は1時半試合開始のデーゲーム。ところが、早朝から、本格的な雨が降り続いている状態。「こりゃ中止じゃないかのう」言くと、「少々降っても、チケットは全部売とるんやから、カープは絶対やるわ。芝生に水がたまってどうにもならんことになったら別やけどな」という、すっかり関西弁に染まった息子の答え。「そういうもんかのう。小さい子供もおるし、カッパを着て野球を見るのもさえんのう」などと思いつつ家を出たわけです。



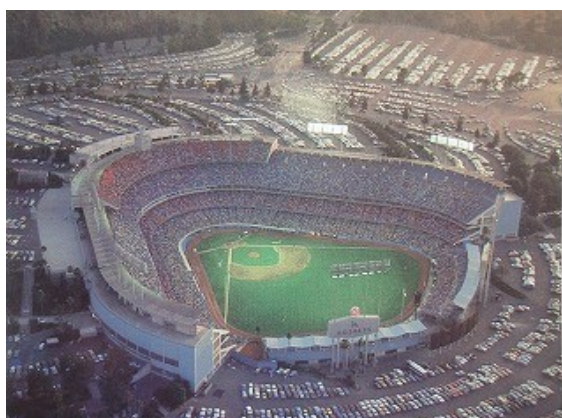
早めに球場についたものの雨は降り続いたまま。しかし熱心なカープファンで席は半分位は埋まっている状態でした。指定の席に行ってみるとバックネット裏の上段の屋根のある場所で、運の良さを3人(+1人)で大喜び。試合は30分遅れで開始したものの、その頃には雨もほぼおさまって、快適な野球観戦をすることができましたよ。試合の方は、先発のエース、マエケンこと前田健太が打ち込まれ、6-1でヤクルトに完敗という残念な結果。しかし、勝ち負けはともかく、私は日頃の憂さを忘れて、十分に楽しむことができました。

それというのも、この球場の広々とした美しさ、そしてゆったりとした解放感のせいでしょうね。カープファンのにぎやかな応援も、みんなでカープが勝つために応援する、というファン同士が一体になった雰囲気もいいもんです。大リーグをモデルにしたというこの球場は、「遊び心」と「美しい空間」をたっぷり盛り込んだ「すばらしきコロシアム」—これは広島宝物ですね。

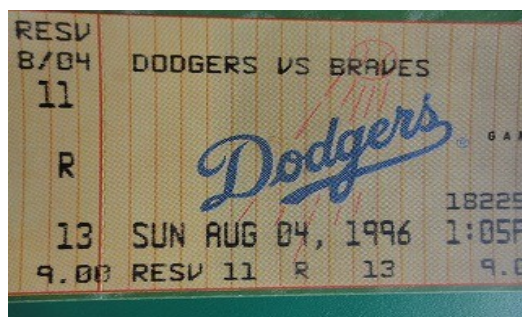


もう16年もまえになりますが、米国へ家族で旅行した折に、義父の友人の日系二世の家族とともに、大リーグの試合を観戦したことがあります。ロサンゼルス郊外にあるドジャースタジアムです。5万6千人収容という球場の大きさにも驚きましたが、まわりをグルリと取り囲む駐車場の広さは大変なものでした。遅く行ったら、ものすごく遠い場所にとめることになるそうです。車以外に交通手段のない場所だから、これだけ広大な駐車場が必要なのでしょう。入場の際の所持品のチェックも厳しいものでしたね。日本の検査と違い、銃器、爆発物を警戒しているせいかもしれません。

印象深い風景として覚えていることがあります。それは試合開始前に、子供たちと野球グッズを売る売店にいた時の事なのですが、アメリカの国歌がながれてきたんですね。すると、入場していた人たちが一斉に立ち止り、帽子をとり、胸にあてて、頭をたれたんです。私はどうしていいかわからず、ただ立ち止って見ていたのですが、「野球はアメリカの国技なんだ」と感じましたね。



私が行った年には、野茂がアメリカに渡り、初挑戦ながらドジャースで活躍した時でしたが、日系人の反応は概して冷たく「野茂はだめですよ。いずれ打たれますよ」という感じでしたね。そこには、「大リーグは日本の野球とはレベルが違う」という、国技として野球を位置づけている米国人のプライドもあるのでしょう。日系人というのは顔は日本人でも、心は米国人ですからね。特に三世、四世になると、日本語は話せませんし、完全なる米国人ですよ



球場の中は、日本のように応援団らしき集団がいないので、笛や太鼓で旗を振ってという風景がなく、拍手やブーイングはしても、意外に静かにゆったりと楽しんでいるという雰囲気でした。驚いたのは球場内の、食べ物の安さと量の多いこと！麦酒やコーラを取っても、ミディアムサイズでも大きすぎるくらい、これでラージでもすると、とんでもないような大きさですね。ポテトチップの様なものを1皿とると、クリーム状のものをつけて食べるんですが、それが安いうえに、量がびっくりするような多さで、とても私には食べきれませんでしたよ。

おもしろいのは、球場内の売り子です。ポップコーン、ピーナッツなどを少年(おじさんも?)たちが売っているのですが、声がかかるとかなりの遠くからでも投げるんですよ。それも、ゆっくり山なり

ではなく、ブーメランのごとく下手投げで、スピードボールがくるんです。そして見事なコントロールで客の「手のひらミット」にストライク！客がお金をとなりの人に渡すと、それが手渡しで売り子の少年のもとへいき、おつりがあれば又手渡しで客の元に戻ってくる、という具合です。

野球の見方にしても「ファールボールに当たらないよう気を付けてください」というアナウンスが日本では流れますが、米国ではファールボールは取りに行くもの、という意識があり、子供たちはグローブを持っていますし、日本式によけたりすると、「弱虫」という目で見られると聞きましたね。それだけ観客も試合に参加している、という意識が強いのでしょうね。試合の合間には「私を野球に連れてって」という歌を観客みんなで歌い上げる合唱タイムあり、プレイとは別のところで、大リーグ野球を楽しみました。



アメリカには懸命に学び働いて、高収入と社会的地位を得ようとする者と、そんなものはいらないから、野球を見る楽しみがもてる生活ができれば、それで十分だよ、と考える者がいる。そんなことを聞いたことがあります。このようなことが、経済環境が悪化している現在のアメリカ社会に、今でも通じるか否かはわかりません。しかし、16年前当時の、ドジャースタジアムの入場チケットが、6ドル～11ドルとあるのは、当時の為替レートを考えても、かなり安い値段です。

この入場料が現在でも続いているのか、ということは確認できません。しかし、これぐらいなら、野球は気軽に観戦を楽しめるスポーツということになるでしょう。しかし、3千円～4千円という日本の入場料金は、米国のそれと比べてかなり高額ですし、球場内の飲み物、食べ物もはっきり言って高いです。これでは家族4人で行けばかなりの出費になるでしょうし、気軽に見に行けるスポーツとは言い難い、というのが残念ですね。どうしてこうなるのか、いろんな理由があるんでしょうが、何とかならんもんですかね・・・



「せっかく連れってても、1歳半の孫娘は、ほとんど居眠りと半泣き状態。そりゃあの年で野球を楽しめいうのは、ちいと無理。お疲れさんでした！」

(12・6・28)